

平成二十四年第三回定例会（九月議会）は、平成二十三年度の決算認定及び一般会計補正予算など議案三十一件、議員提出議案七件が審議されました。九月四日には本会議において会派別総括質疑が行われ、さらに五日、六日両日に決算特別委員会、続く七日、八日に各常任委員会が審議を行いました。平成二十三年度決算認定では経常収支比率の改善など財政健全化策や、主要事業の成果が問われました。また、補正予算をめぐっては、合併特例期間の終了を見据えて、財政調整基金や減債基金、特別目的基金への積み立ての妥当性が議論されました。

## 議案に対する総括質疑

### 利便性あるまちづくりを

誠風会

**問** 市道第二六二号線（駒西小学校前）拡幅の内容について。

**答** この道路は交通量も多く、通学路として利用されています。一部の土地所有者の協力が得られる見通しがあったので用地を取得し、来年度、暫定的に歩道を整備していきたいと思います。

**問** 自転車駐車場条例を改正し、自転車駐車場の管理について指定管理者制度を導入することにより、「市民サービスの向上」や「管理コストの削減」はどのように図られるのか。

**答** 指定管理者への移行後は、今までの市役所での手続から、全ての手続が自転車駐車場の管理棟でできるようになります。さらに、管理棟は年中無休で、朝六時から夜九時まで受付と整理を行う人員を配置するので、利用者にとって便利になります。また、職員の人件費を含めた経費の削減も期待できます。

**問** 平成二十三年度決算の分析と評価は。

**答** 人件費の抑制や公債費の減少で、昨年に比べ改善。要因としては合併特例債の活用などが大きいと認識しています。

## 将来に備えた基金への積み立て 公明党

**問** 各種基金の目標額は。

**答** 「公共施設整備基金」は、広域ごみ処理施設の整備、小中学校の大規模改造、支所と本庁舎の整備、上福岡給食センターの建て替えで当面は三八億円。「減債基金」は返済のピークが始まる平成二十六年から六年間に備え九億円。財政調整基金は、標準財政規模の一〇％から一五％を目標としています。

**問** 身の丈に合った行財政運営の課題は。

**答** 地方交付税上、合併の恩恵は平成十八年度から二十三年度までに五一億六千万円ありました。二十八年度以降、五年で削減されます。行政サービスの削減は非常に困難で、合併特例債がないと仮定した身の丈に合った行財政運営の早期構築が必要と考えています。

**問** 内部・外部の事業評価の活用は。

**答** 平成二十二年度から行政評価支援システムを導入し、実施しています。公開事業評価においても結果を踏まえ、今後の方針を示しています。

## 余剰財源は市民に明らかに 日本共産党

**問** 総計予算主義の原則から、年度途中でも余剰金を明らかにして、市民の暮らしを守る事業に充たすべきだ。平成二十三年度も余剰金は明らかにされぬまま、決算で一三億円の繰り越しがわかった。財政運営の透明性に欠けるのではないか。

**答** 平成二十四年度は専門職を採用しました。二十五年度には一般職を採用し、スピー

**問** 職員削減は業務継承を困難にし、市民サービスを後退させる。行政組織を空洞化させない職員採用計画が必要ではないか。

**答** 平成二十四年度は専門職を採用しました。二十五年度には一般職を採用し、スピー

**問** 担税力を超える税額で、分割による支払いでも市民は苦しんでいる。納税者の権利「自主申告、自主納税」に基づき、収税を行うべきでは。

**答** 平成二十四年度は県から指導を受けながら、県内一斉の収納対策強化に取り組んでいます。自主納税を推進し、適切に対応していきます。

# 今後のまちの課題を議論

## 市民の安全を優先した補正を 信政会

**問** 旧大井清掃センターの具体的な跡地利用の方向性は。

**答** 旧市町で異なっていた防災行政無線のシステム統合化を行うとともに、電波をアナログからデジタル化するもので、平成二十五年から二十六年に実施します。また、市内に無線通信網を整備し、平成二十四年度から二十五年にかけて各施設に無線電話機を配備します。

**問** 交通安全に対する検討と交通安全推進事業の補正予算の内容は。

**答** 昨年十一月以降に死亡事故が四件発生したのを受け、早急に注視看板の設置や路面標示の補修を行うこととし、そのための増額補正をします。

**問** 防災行政無線統合化等工事の内容とスケジュールは。

**答** 防災行政無線の統合化、デジタル化により、全国瞬時警報システムなど緊急放送の到達時間の短縮や音質の向上、放送トラブルの解消などが見込まれます。また、無線通信網により、一般電話や携帯電話等が使用できない状況においても、通信手段を確保できます。



指定管理者制度を導入する苗間第2自転車駐車場

## 市長マニフェストの進捗は かがやき21

**問** 平成二十三年度での市長マニフェストの進捗は。

**答** 外部評価、公開事業評価では、内部での評価の甘さや職員のプレゼン能力、判断能力について厳しい指摘を受けました。

**問** 新規に空き店舗対策としてチャレンジショップに県と市が補助を行いました。その結果、上福岡駅前名店街に三店舗が営業を開始、コミュニケーションスペースもオープンしました。また外部評価制度や公開事業評価も行いました。

**答** がん検診では大腸がんなどで受診率が県内一位でした。受診率が低い胃がん検診は今年度からABC検診（※）を導入し、受診率向上を図っています。

**問** 他の新規事業、市独自の事業で、その成果や課題は。

**答** また市民農園を二カ所で開園。市民ニーズも高く、今年度は新たに一カ所開設しました。スクールカウンセラーを配置しましたが、今後は補助がなくなるため財源確保が課題となっています。

※ABC検診…採血のみで、ピロリ菌感染の有無と萎縮性胃炎を判定し、胃がん発症の危険度を判定する検診のこと。